



市内の中学校

**教員の働き方の改革を
答検討しているところ**

横山 栄一 議員
(共産党)

○ 府教育委員会の勤務実態調査では「過労死ライン」とされる月80時間超に相当する残業を行う教諭の割合は、小・中学校いずれも全国平均を上回っていた。「教員の働き方の改革」が求められている。○本市の実態を正確に把握し、改善する計画は、○中学校のクラブ活動をどう進めていくのか。

○ 教育部長 「出退勤システムを含めて検討しているところ。○府の部活動指針を受け、方針の策定を進める。」

○ 今、国保は「社会的弱者の医療制度」である。所得100万円以下は約5割近くになっている。○一年金が削られる中で、国保は他の社会保険よりも高いの声があり、引き下げる努力をすべき。○

市の独自の減免制度の充実を

○ 市民部長 「国保事業の運営に見合った税収確保が必要。低所得者の方を配慮しながら見直しの検討を行っていく。」

○ 府の減免基準を参考にして負担緩和している。

○ 「中学校昼食等検討委員会」から、中学生全員を対象にした完全給食の実施を望む審査結果が教育長に答申された。「検討委員会」の答申を受けて市の対応は、また、安全でおいしい、栄養のある給食を提供するためにも自校直営方式の実施を。」

○ 教育部長 「答申を検討した結果、教育委員会として、中学校での完全給食の実施を目指すことが望ましいとの結論に至り、諸課題を検討し実施に向け取り組んでいく。」

議員13名が一般質問

※一般質問とは議員個人が行財政状況や今後の方針などを市に問うものです。

普賢寺の田園風景

質問を行った順に、各議員から提出された要約原稿にもとづいて掲載しています。

録画配信でチェック!

市議会ホームページから、録画をご覧いただけます。

京田辺市議会 インターネット中継 で検索



府田辺総合庁舎北側

**新市街地整備事業は着実に
答 市民生活の拠点として行う**

小林 喜代司 議員
(みらい京田辺)

○ 田辺中央北地区の新市街地整備事業は、山城地域で核となるまちづくりを目指す本市にとって重要な施策である。組合方式による事業として準備組合が設立されたが、今後の計画や市の支援策は。

○ 市長 「これまでは市の北部中部、南部という鉄道路線を拠点としてコンパクトなまちづくりを進めてきた。これからは本市が飛躍するために、文化振興機能を備えた複合型公共施設や大規模な商業施設を核とした新たな市街地を整備する事で、都市機能が整った市民生活の拠点として中心市街地の整備を図りたい。まちづくりにもつなげた支援は私は一杯やっていたと思う。」

○ 天津神川の整備を、こ

れまでも何回も要望しているが今後の見直しは。

○ 建設部長 「現在、府が水路橋の耐震補強工事を実施している。工事は平成30年度に終了し、その後、水路断面の拡幅工事に着手する計画で、今の水路橋の場所にも一つ水路橋を設置すると聞いている。早期の着工を要望したい。」

○ 近鉄興戸駅西側一帯の整備の見直しは。

○ 建設部長 「防貫川の切り下げ用地を利用して、JRの第二和井田踏切の整備も含めて進めている。駅南側で近鉄軌道敷を横断する水路の容量不足により、同志社の通学路などの道路がしばしば冠水するので、区と協議の結果、排水対策を先行している。その後、駅西側の設計に入りたい。」



建設中の認定こども園

**本市の特色をこども園にも
答 府内初の公私連携で進める**

市田 博 議員
(一新会)

○ 平成31年4月に三山木駅前保育園、同志社山手地区で幼保連携型認定こども園が、いずれも市民協会で開園予定である。市長の強い意向と考えるが、両園の工事について、今後のスケジュールは、また、保育士不足が全国的に課題だが、現在の状況は。

○ 市長 「両園の整備状況は、いずれも7月上旬に園舎建築工事に着手する予定。また、保育士の確保にも取組まれているとの報告を受けている。」

○ 本市がおおむね小学校区ごとに市立幼稚園を配置して、義務教育につながる幼児教育を広く提供してきた実績と特色を、29年9月に策定した「こどもが輝く京田辺の実現に向けた基本方針」に基づき、本市で初めて設置され

る幼保連携型認定こども園にどのように持たせるのか。

○ 市長 「こども園を整備・運営される社会福祉法人のみづく福祉会と協定を締結し、府内初の「公私連携」幼保連携型認定こども園としてスタートする。この協定により連携を図ることで、入園児募集も市立幼稚園と合わせて進めており、義務教育への円滑な接続や、地域の子育て支援などの取り組みに期待している。」

○ 中学校昼食として給食を実施することが望ましいとの検討委員会の提言を受けて市の考えは。

○ 教育部長 「教育委員会では提言内容を真摯に受け止め、「中学校給食実施の基本方針」を定めた。多くの諸課題を慎重かつ迅速に検討する。」

用語の解説

TOJ (4面左4段目)
国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」の略称。毎年5月に開催され、京都ステーションは、京田辺市の一部もコースに認定されている。

高齢者向けケアハウス (5面左3段目)
60歳以上の高齢者が食事、洗濯などの介護サービスを受けられる施設で、軽費老人ホームとも呼ばれ、低所得者の費用負担が比較的軽い施設のこと。

マルチハザードマップ (5面左7段目)
地震、風水害などの自然災害を含む、さまざまな危機をマルチハザードと呼び、それらによる被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。とりわけ近年では、こうした多角的な危機に対抗するための防災システムや政府などの危機管理体制の向上に向けた取り組みが重要視されている。